

福岡共同

Fukuoka Communal Archives

公文書館だより

vol.12

平成30年2月

February 2018



平成29年11月18日に開館5周年を迎え、記念イベントを開催しました。



TOPICS / 平成29年度第1回企画展「福岡の広報紙展 ～伝えたい!知ってほしい!行政の取組み～」…………… 2～3ページ

- 講演会「市町村広報紙に求められるもの～災害報道の経験から～」…………… 4ページ
- 公開講座「夏休み親子で作る和綴じメモ帳」…………… 4ページ
- 開館5周年記念イベント…………… 5ページ
- 見学のご案内／会議室・研修室利用のご案内…………… 6ページ
- 活動報告／選別会議実施状況…………… 7ページ

平成29年度 第1回企画展

「福岡の広報紙展」

「伝えたい！知ってほしい！
行政の取組み」

平成29年7月19日(水)～9月24日(日)の約二ヶ月間、平成29年度第1回企画展として「福岡の広報紙展」を開催しました。当館は福岡県および市町村のご協力により、県内全ての自治体広報紙(61紙)を所蔵しています。広報紙は毎月私たちの手元に届く身近な行政刊物ですが、よそのまちの広報紙との比較や、創刊当初からの変遷をたどってみることで、意外な一面を発見することができます。

福岡共同公文書館 平成29年度 第1回企画展

福岡の 広報紙展

～伝えたい！知ってほしい！
行政の取組み～

平成29年 7月19日(水)～9月24日(日)

開館時間 午前9時～午後5時 (休館日 月曜日、祝日、9月19日(水))

観覧料 無料

福岡共同公文書館
福岡県福岡市中央区天神1-1-1
092-919-6166

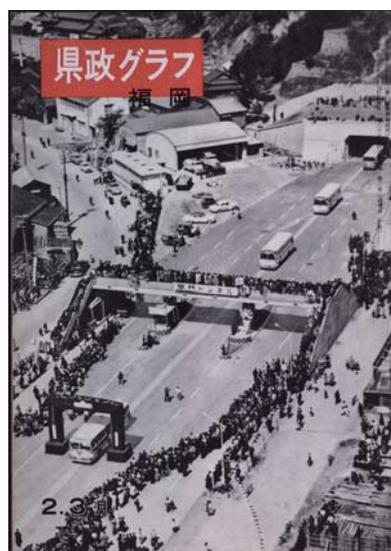
本企画展では、地域性豊かな県内の広報紙について、創刊号や過去の貴重な広報紙、市町村合併による最終号のほか、全国広報コンクール受賞号等を展示しました。約70年に及ぶ広報紙のあゆみのかで、紙面やレイアウトの移り変わりや、そこからみえてくる社会や住民生活との関係を踏まえながら、広報紙の意義や役割を、紹介しました。

1 福岡県の広報紙

現在の広報(Public Relations)という概念は、占領期におけるGHQの民主化政策とともに広まったといわれています¹⁾。昭和22年(1947)には、県政史上初の公選知事である杉本勝次の就任もあいまって、広報活動を通じた県民との意思疎通は、重要な政策課題となりました。初の広報新聞『県政時報』の創刊(昭和24年5月)にあたって杉本知事は、「今回、県では県政の実相を、苦しいことも、喜んでいただけることも卒直にその真実を御知らせし、積極的協力を御願いと共、建設的批判、意見などし御聞かせ願ひ、お互に納得の行く明朗な県政を実現せんがための一助として『県政時報』を発行することに致しました」とその目的を述べています。

また、本紙の創刊直前には、「広報係」(現 県民情報広報課)が総務部文書課に設置されています。同係では『県政時報』に加えて、県政をより身近なものとして知ってもらうため、昭和26年11月からは『ふ

くおか』という広報雑誌も発行しています。こちらは紙面の見やすさを重視するために、活字中心のものからグラフ誌へと刷新されました(『県政グラフ福岡』のち『グラフふくおか』)。誌面の大半を占める大きな写真には、新幹線、高速道路、路面電車等も含まれており、高度経済成長期の都市交通の一端をうかがい知ることができます。



▲(表紙) 関門トンネル開通
(「県政グラフ福岡」昭和33年2・3月号)

2 県内のお宝広報紙一挙大公開

市町村が発行する広報紙は、その自治体の活動の記録といっても過言ではありません。過去の広報紙をひもとくと、毎年度の行政活動はもちろん、市制・町村制施行や市町村合併といった自治体の生誕に関わる大きな出来事や、自然災害との直面といった沢山の活動記録が詰まっています。展示では、平成の

大合併に係る朝倉市・東峰村・柳川市・八女市を中心に、広報紙や合併に関する公文書をもとにまちの歴史を振り返りました。

このほかパネルでは、市町村広報紙の特徴に関する説明や、現行60紙の創刊号等も展示しました。さらに今回は展示室から飛び出して、館内ロビーにて広報紙担当者のお薦め号も担当者によるセールスポイントと併せてご紹介しました。なお、お薦め号は実際に手にとって、作り手の思いのこもった表紙をはじめ、地域性あふれる各紙の違いをご覧いただきました。



▲「添田町報」創刊号
(昭和36年8月10日)



▲八女市合併に係る関係町村の廃刊広報紙(福岡県立図書館所蔵)

3 福智町の全国広報コンクール 受賞広報紙

日本広報協会が主催する全国広報コンクールでは、地方自治体の広報活動の向上寄与を目的に、昭和39年(1964)より各種広報作品について審査を行い、優秀作品を表彰しています。本コンクールにおいて福智町²は、記事の企画力や編集力、写真といった広報力が高く評価され、平成13年(2001)から本年にいたるまで、12回にわたって入選を果たしています(合併前の赤池町広報紙を含む)。なかでも平成16年・18年には、コンクール最高賞である内閣総理大臣賞の栄冠に輝いています。

今回は、上野焼・童謡・炭鉱・高齢者医療問題といった、まちの歴史と魅力があふれる福智町の全国広報コンクールの入選作品を一堂に展示しました。加えて、2度の内閣総理大臣賞受賞時の「銀杯」もご紹介しました。企画展アンケートでは、こうした福智町のコンクール受賞号について多くの皆様からご好評をいただきました。



▲内閣総理大臣賞 銀杯(平成16、18年度)



▲「広報あかいけ」受賞号(No.491,519)

企画展の開催にあたっては、各自治体の広報紙担当者様や関係機関各位のご協力を賜りました。市町村広報紙のご担当者様には、所蔵状況に関するアンケートや、資料の借用についてご快諾いただき、ありがとうございました。また、福岡県立図書館郷土資料課様からは過去の創刊号・最終号といった貴重な広報紙等、福智町様からは旧3町の最終号やコンクール受賞号、銀杯等をお借りし、展示でご紹介させていただきますました。ご協力を賜った皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

開催期間中、447名の皆様にご観覧いただきました。本当にありがとうございました。

注

- 1、条例の公布等を周知する福岡県の「公報」は、明治43年(1910)より現在に至るまで発行されています。
- 2、福智町は平成18年3月6日、赤池町・金田町・方城町が合併して新設され、同年4月より「広報ふくち」を創刊しています。

講演会・公開講座を開催しました

市町村広報紙に求められるもの ～災害報道の経験から～

平成29年7月30日(日)、西日本新聞の記者、吉田真紀さんを講師にお招きし、講演会を開催しました。

熊本地震と直近の九州北部豪雨を取材して感じたことをお話していただくと共に、新聞紙面で取上げられた「被災地生活関連情報特集」、市町村が発行した広報の臨時号、そして避難所に掲示されていた避難所生活に密接したくらしの情報など、災害時に求められる広報活動のあり方、大切さについてお話いただきました。

参加者の方からは、「東北の災害で、たまたま前日に防災の記事を見たひとりの人は津波から助かったとのお話を聞いて、防災の記事も含め広報紙はきちんと読むよう心がけたいと思いました」等の意見が寄せられました。

会場には28名の方にお越しいただきました。ありがとうございました。



夏休み親子で作る和綴じメモ帳

平成29年7月29日(土)、福岡女子短期大学准教授の倉本優子さんを講師にお招きし、公開講座「夏休み親子で作る和綴じメモ帳」を開催しました。

講座開始前に、2班に分けて館内見学を実施し、保護者と小中学生総勢35名が参加されました。

講座では、最初に先生より「和綴じ本」の作り方を実演していただきました。その後、親子で一緒に「四つ目綴じ」の和綴じメモ帳作りに取り組み、最後には、参加者全員が色とりどりの和綴じメモ帳を完成させることができました。

参加者の方からは、「分からない所をてきぱきと教えていただき、自分のペースで進められて、自由研究の参考になりました」等の感想が寄せられました。

開館5周年記念イベント を開催しました

平成29年11月18日(土)に、当館の開館5周年を記念し、イベントを開催しました。まず、当館の館長が、ご来場いただいた皆様にご挨拶をした後、太鼓演奏と書道パフォーマンスの共演を披露していただきました。

太鼓を演奏していただいた「つくし太鼓」の皆様は、郷土芸能の一端を担う太鼓グループとして、筑紫野市を中心に子どもから大人まで幅広い年齢層で活動されています。近年も様々な催しで公演活動されており、日本太鼓協会第1回南日本大会ジュニアの部での準優勝の実績もあるそうです。

書道パフォーマンスをしていた西尾真紀さんは、太宰府市出身の書家で、平成14年からロゴや広告の制作をはじめ広範囲でご活躍されている方です。最近では、カンボジアでの書道パフォーマンス披露などのご経験もあり、代表作には、九州

国立博物館のシンボルマークのほか、商業施設や店舗のロゴなど、多くの有名な作品があります。

イベントでは、まず「つくし太鼓」による演奏から始まり、太鼓演奏の2曲目から西尾真紀さんが登場。太鼓の響きとともに、5周年を迎えた当館のために、「Archive 未来への架け橋」と力強い筆づかいで書き上げていただきました。

Archive(アーカイブ)という言葉には、重要な記録を後世に残し伝え、活用していくという意味があります。当館でも、重要な公文書を保管し、過去、現在、未来における行政活動の記録を次の世代へつなぐことで、多くの人に役立つ施設でありたいという願いが込められています。

今回のイベントでは、出演者や関係者の方々、そして当日お越しいただいた多くの来場者の皆様のおかげで無事に成功することができました。これを機に、今まで当館を知らなかった、知ってはいただけど入ることが無かったという方にとって、公文書館が少しでも身近な存在になっていたできれば幸いです。



公文書館を見学しませんか？

「公文書館って存在は知っているけれど、どのような所なのか分からない」という声をよく聞きます。

そこで、当館ではもっと身近に感じていただくため、館内見学の受入れを積極的に行っています。

今回は、昨年7月29日(土)に開催した、公開講座「夏休み親子で作る和綴じメモ帳」の中で行った館内見学の模様をご紹介します。「親子で」の講座ということで、当日は保護者、お子さん合わせて、総勢35名の参加でした。展示室に加え、普段立ち入ることができない選別室や分厚い耐火扉のある文書保存庫などのバックヤードを2班に分かれて見学していただきました。

公文書館を多くのおみなさまに知っていただくために、学校の社会科見学や総合学習、コミュニティ活動などの一環としての施設見学などを受け入れていますので、お気軽にお問い合わせください。



会議室・研修室を利用できます。

福岡共同公文書館では、会議室・研修室を有料で貸し出しています(要事前申込み)。施設の使用料金は下記をご参照ください。また、館内の資料は有料でコピーができます。資料のコピーを希望される場合は、職員にお申し付け下さい。

- 会議室は、少人数の会議やサークル活動などにご利用いただけます
- 研修室は、音響・映像システムを備え90名まで収容できるため、講演会や講習などにご利用いただけます(駐車スペースが豊富です)
- 施設利用、複写サービスとも目的等によっては、ご利用いただけない場合があります



▲福岡共同公文書館キャラクター「しよこら」

● 施設使用料金 ●

	収容人数	面積	金額(1時間につき)
会議室	16名	58㎡	390円
研修室	90名	171㎡	1,150円

● 複写サービス ●

白黒	1枚 10円
カラー	1枚 30円
マイクロフィルムからの印刷	1枚 10円



▲研修室を借りて「講演会」を開催されている様子



▲会議室を利用されている様子(写真は視察の時のもの)



▲正面駐車場には13台駐車できます



▲建物裏にも駐車できます

活 動 報 告

平成29年

- 7月11日 九州大学【視察 2名】
- 7月14日 福岡共同公文書館出前展示 期間(~9/22) 場所(福岡県職員研修所 1階ロビー) ●
期間中研修生数 1,704名(内訳:県 710名、市町村 994名)
- 7月16日 学習院大学【見学 24名】 ●
- 7月19日 平成29年度第1回企画展「福岡の広報紙展～伝えたい! 知ってほしい! 行政の取組み～」開催(~9/24) 447名
- 7月19日 企画展「福岡の広報紙展～伝えたい! 知ってほしい! 行政の取組み～」の取材(ケーブルステーション福岡)
- 7月20日 企画展「福岡の広報紙展～伝えたい! 知ってほしい! 行政の取組み～」の放送(ケーブルステーション福岡)
- 7月21日 企画展「福岡の広報紙展～伝えたい! 知ってほしい! 行政の取組み～」の放送(ケーブルステーション福岡)
- 7月27日 平成29年度第1回運営専門協議会(県・組合同開催)
- 7月29日 公開講座「夏休み親子で作る和綴じメモ帳」開催 35名
(講師 福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科 准教授 倉本 優子氏)
- 7月30日 講演会「市町村広報紙に求められるもの～災害報道の経験から～」開催 28名
(講師 株式会社西日本新聞社 報道センター 社会部 記者 吉田 真紀氏)
- 8月 2日 企画展「福岡の広報紙展～伝えたい! 知ってほしい! 行政の取組み～」の放送(FMたんと)
- 8月25日 熊本大学【視察 1名】
- 8月26日 名桜大学【視察 1名】
- 9月13日 同志社大学【見学 3名】
- 9月14日 宗像市南郷地区コミュニティ運営協議会【見学 10名】 ●
- 10月27日 しらゆり学級【見学 15名】
- 10月28日 国立公文書館業務課【視察 2名】
- 11月1日 山形県学事文書課【視察 1名】
- 11月14日 福岡県市町村支援課・市町村職員実務研修生【見学 14名】
- 11月17日 ちくしのエコライフ【見学 10名】
- 11月18日 「福岡共同公文書館開館5周年記念イベント」開催
【出演者 (書道)西尾 真紀氏、(太鼓)つくし太鼓】
- 11月18日 「福岡共同公文書館開館5周年記念講演会・シンポジウム」開催 76名
(講師兼パネリスト 筑波大学名誉教授 大濱 徹也氏、
コーディネーター 九州大学大学文書館教授 折田 悦郎氏、
パネリスト 広島大学文書館館長 小池 聖一氏、
パネリスト 日出町歴史資料館館長 平井 義人氏)
- 11月25日 九州産業大学【見学 30名】
- 12月2日 九州国立博物館ボランティア環境部会【見学 36名】
- 12月3日 公開講座「和綴じ講座」開催 19名
(講師 福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科 准教授 倉本 優子氏)
- 12月13日 二日市東コミュニティセンター【見学 15名】



▲福岡共同公文書館出前展示
福岡県職員研修所(大野城市大字乙金)の1階ロビーにおいて、公文書館の紹介、公文書管理、所蔵資料の紹介に係るパネル12枚を展示しました。



▲学習院大学
当館の概要と運営方法等について説明し、その後バックヤードの見学をしていただきました。県と市町村との共同運営という当館の運営形態や、市町村からの資料の移管のあり方等について、いくつもの質問をいただきました。



▲宗像市南郷地区コミュニティ運営協議会
当館の企画展「福岡の広報紙展」の見学に合わせての施設見学とのことでしたので、まず企画展を当館相談員の解説と合わせてご覧いただきました。その後、施設の概要説明とバックヤード見学にご案内いたしました。

選別会議実施状況

選別会議・・・自治体から1次選別を経て搬入された公文書について、評価選別基準により2次選別を行います。
2次選別の結果、当館へ移管しないこととなった公文書については、原則として、搬入元の自治体に返却します。

筑紫野市	大牟田市	須恵町	大木町	春日市
中間市	水巻町	宮若市	嘉麻市	みやこ町
古賀市	八女市	久留米市	福津市	

▲平成29年7月から平成29年12月までの分

市町村への支援を行っています

公文書館では、歴史公文書の移管促進のため、市町村に対して様々な支援を行っています。

○職員説明会：公文書館職員が市町村に出向き、歴史公文書を保存することの重要性や選別方法を知っていただく説明会を開催しています。



▲福岡共同公文書館
キャラクター「しよこら」

○目録選別：市町村の公文書リストの中から歴史公文書の候補を選び出します。

○現地選別：実際に公文書を見て、歴史公文書を選び出します。

※歴史公文書とは、歴史資料として重要な公文書のことをいいます。

※写真は現地選別の様子です。公文書館職員が各市町村に出向き、公文書の内容を1冊ずつ確認して、歴史公文書に当たるかを判断します。



交通アクセス

- JR二日市駅より徒歩約13分または西鉄バス「警察署前」バス停より徒歩約1分
- 西鉄二日市駅より下車、西鉄バス「警察署前」バス停より徒歩約1分
- 九州自動車道「筑紫野インター」より車で約5分

福岡共同公文書館

〒818-0041

福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

お問い合わせ：092-919-6166

Mail:kobunsyokan@pref.fukuoka.lg.jp

ホームページ：<http://kobunsyokan.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡共同公文書館には宝くじの収益金が活用されています。

